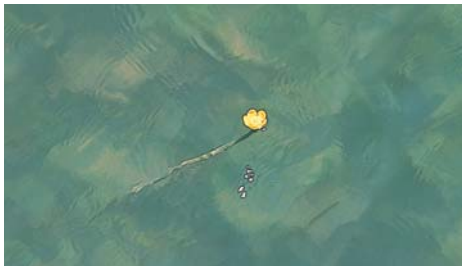
昔ながらの自然

筑後地方は、豊かな自然に恵まれていますが、近年は開発が進み、昔ながらの風景が少なくなってきました。
見る者を和ませてくれるような田舎の風景や絶滅が危惧されている動植物などは、貴重な財産であり、ぜひ将来に残していきたいものです。



二ツ川とべんちょこ　（MAP 1-⑤）

沖端川を水源とする二ツ川は、その水辺景観もすばらしい、水郷柳川を支える重要な河川です。
水産１級としての利水水質に適合している清流であり、各種のタナゴ類やイバラモなど、動植物が多種多様に生息しています。特にニッポンバラタナゴやセボシタビラなどのタナゴ類は絶滅が心配される全国的にも希少な魚で、これら通称「べんちょこ」は合併前の三橋町ではシンボルマークにも採用されていました。
この貴重な川は、未来の子どもたちへ残す大切なものでもあり、全国的にも誇れるものです。

オグラコウホネ群生地　三橋町磯鳥（MAP 1-⑥）

オグラコウホネは水中に生育する多年草で、初夏から秋にかけて黄色い小さな花を咲かせます。河川や水路の改修によって年々生育範囲が狭くなっており、環境省のレッドデータブックでも絶滅危惧類に指定されている希少な植物です。
市内では、磯鳥水門付近などに群生していましたが、近年生育環境が著しく悪化しており、かろうじてコロニーが維持されています。

沖端川と水辺のヨシ類　筑紫町（MAP 1-⑦）

近年の河川改修工事などにより失われつつありますが、沖端川や塩塚川の川岸には、ヨシ類がうっそうと繁っている昔ながらの風景が残っているところがあります。川岸のヨシ類は水流を阻害するといったマイナス面もありますが、水質の浄化作用や土手の保護といったプラス面もあり、なによりもその昔ながらの水辺景観は大切にしていきたいものです。

メダケの藪（農村部の風景）

平坦な本市の農村部において、メダケの藪は景観上のアクセントとなっています。かつては水路の角地にあり土手崩れを防ぎ、竹自体は豆棚やさおなどにも利用されていました。
現在ではほ場整備が進み、昔ながらの田園風景が見られるところは少なくなってきましたが、蒲池地区や川北地区などにわずかに残っています。

カササギ

カササギは、腹や肩が白く、その他は黒いカラス科の鳥で、日本では北部九州の平野部にのみ生息しています。筑後地方では「こうげがらす」とか「かちがらす」とも呼ばれ、秀吉の朝鮮出兵の際に持ち込まれ、それが繁殖したといわれています。
国の天然記念物にも指定されており、柳川の点景としてなくてはならぬ大切な鳥ですが、最近はあまり見られなくなってきています。